特集

大学×スポーツ、広がる地平。

早稲田大学は、長い歴史の中でスポーツ振興に取り組んできました。
今日、その力は競技の枠を超え、さまざまなシーンに広がっています。
スポーツは、学生の成長や社会の発展に、どのように寄与するのでしょうか。
本特集では、大学とスポーツの可能性を追っていきます。

早稲田スポーツの軌跡

大学スポーツの進化、在学生や卒業生の活躍を、写真と共に振り返ります。

写真提供＝共同通信社／早稲田大学歴史館／早稲田スポーツミュージアム／早稲田大学野球部



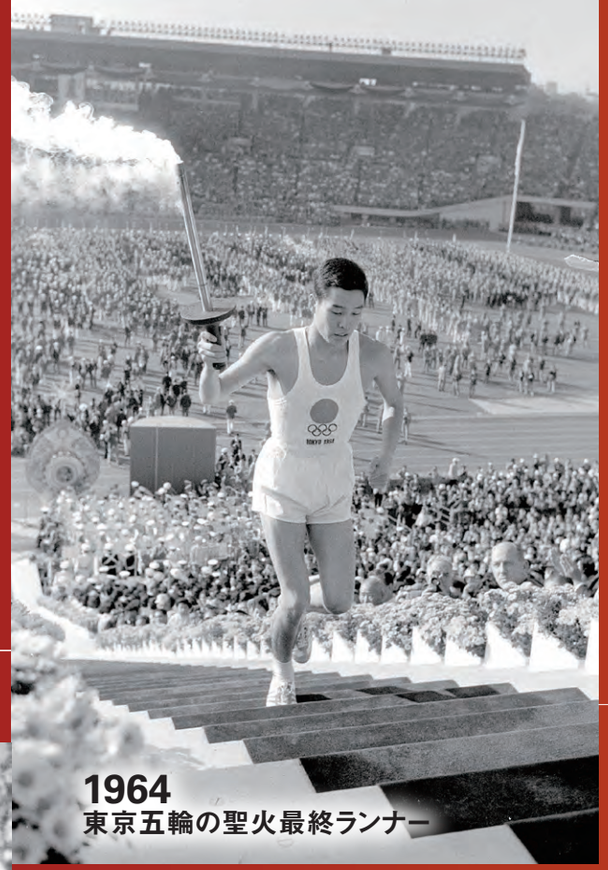
1901 野球部結成

教員の安部磯雄が初代部長を務め、野球部が誕生。翌年には撃剣、柔術、野球、庭球、端艇、弓術の6部が公認される。野球部は1905年、単独チームとして日本初の米国遠征を行い、先進的な野球技術を日本に持ち帰った。(写真：米国遠征時)



1928 日本人初のオリンピック金メダル

織田幹雄(当時商学部)が、アムステルダム五輪の三段跳びで、日本人初となるオリンピック金メダルを獲得。



1964 東京五輪の聖火最終ランナー

原子爆弾が投下された8月6日に広島県で生まれた坂井義則(当時教育学部)が、東京五輪で聖火リレーのアンカーを務める。



1987 人間科学部スポーツ科学科設置

新設の所沢キャンパス内にスポーツ科学科が開設。(写真：所沢キャンパス全景)



1998 サッカーW杯フランス大会

日本が初めて出場したW杯で、岡田武史(政治経済学部卒業)が監督を務めた。



2006 トリノ五輪

荒川静香(教育学部卒業)がフィギュアスケート女子で日本初の金メダル。



2007 全日本大学野球選手権

野球部が第56回全日本大学野球選手権大会で33年ぶりに優勝。(写真：斎藤佑樹[当時教育学部])



1936 友情のメダル

織田幹雄の指導を受けた西田修平(理工学部卒業)が、ベルリン五輪の棒高跳びで銀メダルを獲得。激闘を交わした慶應義塾大学の大江季雄とメダルを分け合った。





1943 “最後の早慶戦”

第二次世界大戦でスポーツ活動が中止される中、「学生野球の父」とも称される飛田穂洲(専門部法学科卒業)らの尽力により早慶戦が実現。



2008 ラグビー、2度の全国連覇

ラグビー蹴球部が第45回全国大学ラグビーフットボール選手権大会で、2007年度につづき優勝。同部は2004～05年度にも2連覇を果たしている。(写真：2008年度大会)



2011 大学駅伝3冠

競走部が箱根駅伝、出雲駅伝、全日本大学駅伝で史上3校目の大学駅伝3冠達成。(写真：中島賢士[当時スポーツ科学部])



2018
平昌五輪
羽生結弦（当時人間科学部通信教育課程）が、フィギュアスケート男子で66年ぶりとなる五輪2連覇を達成。

渡部暁斗（スポーツ科学部卒業）がスキーノルディック複合で3大会連続となるメダルを獲得。



2022
北京五輪



2019
全国大学ラグビーフットボール選手権
ラグビー蹴球部が第56回全国大学ラグビーフットボール選手権大会で11年ぶり16回目の優勝。



2021
東京五輪
須崎優衣（当時スポーツ科学部）がレスリング女子で、本学現役女子学生として初となる金メダルを獲得。

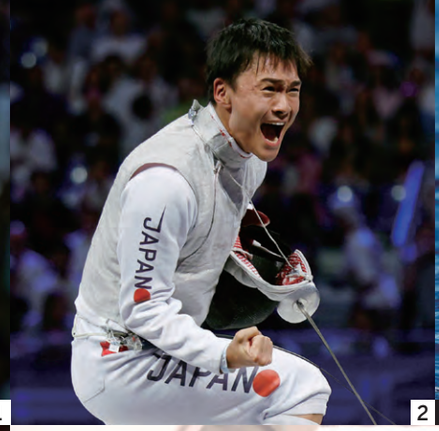
野球部が東京六大学野球春季リーグで49回目のリーグ優勝。 2024年シーズンの春秋の完全制覇に続き、3連覇を果たした。（写真：2025年春季リーグ）



2025 東京六大学野球、3度の栄冠











2024 パリ五輪
在学生・卒業生がオリンピックで6個、パラリンピックで4個のメダルを獲得。
（写真：1 加納虹輝［スポーツ科学部卒業］、2 松山恭助［スポーツ科学部卒業］、3 岡田奎樹［スポーツ科学部卒業／写真右］、4 池田海実［当時スポーツ科学部／韓国代表］、5 鈴木孝幸［教育学部卒業］）





2026 ミラノ・コルティナ五輪
在学生がオリンピックで1個、パラリンピックで2個のメダルを獲得。
（写真：1 村岡桃佳［当時大学院スポーツ科学研究科］、2 小野光希［当時スポーツ科学部］）

早稲田スポーツミュージアム
戸山キャンパスの「早稲田スポーツミュージアム」では、年表や資料、写真などを通して、早稲田スポーツの歴史と現在を紹介しています。入場無料で、どなたでもお越しいただけます。詳細はこちらからご覧ください。

